



## もじ 文字はいつどうやってできたの、だれがつくったの

### かんじ ちゅうごく つた 漢字は中国から伝わった

わたしたちがつかっているにほんごには、かんじ・ひらがな・カタカナがあります。このうち、かんじ漢字は、もともと、ちゅうごく中国で使われていた文字です。大昔、日本には文字がなかったために、ちゅうごく中国の文字をそのままつかっていたのです。ですから、いまから1000年以上も昔の日本のぶんしょう文章は、かんじ漢字だけで書かれていました。

ところが、そのころ、かんじ漢字はおとこ男だけが使うもの、というきまりのようなものがあつたのです。その場合、かんじ漢字しかなければ、おんな女の人にはてがみ手紙を書くこともできません。そのため、おんな女の方は、かんじ漢字のかたちをくずして、かんじ漢字ではない文字をつくり、てがみ手紙を書くようになったのです。これがひらがなや、カタカナのはじまりです。だれが、いつ、つくったのかということは、はっきりしません。このようにして、だんだんと、ひらがなやカタカナができていったのです。

### らぶれたーをひらがなで書いた

とうじ当時のおんな女の人たちは、よくらぶれたーを書いたようです。今のうちに、でんわ電話などのべんり便利なものがなかった時代ですから、好きな人にあいこはく愛を告白するためには、てがみ手紙を書くしかほうほう方法がなかったのです。とうぜん、らぶれたーをもらうおとこ男の方は、ひらがなやカタカナで書いたてがみ手紙をもらうことになります。そうすると、おとこ男の方も、らぶれたーのへんじ返事に、ひらがなやカタカナをつかを使うようになったのです。こうして、おとこ男もおんな女も同じように、ひらがなやカタカナをつかを使うようになったというわけです。

(監修・田代 脩)

